



特定非営利活動法人

日本ボランティアコーディネーター協会  
2010年度 事業計画 (案)

## ■はじめに

歴史的な政権交代が果たされ、人々の生活と心に期待と不安が交錯する中、日本社会のこれからの方向性はますます多様化の様相を呈している。日々顕在化する社会問題やニーズには枚挙にいとまはなく、官ではなく民から生み出される知恵と行動の結晶である市民活動への期待とその役割はますます高まってきている。10年後の地域社会の姿を想像すると、単に財源抑制を狙った「市民参加」や「協働」では到底太刀打ちできず、社会の中での真のつながりを紡ぎ直すために、我々はいま真剣にその備えを始めなくてはならない。

このような中、2009年度はJVCAのミッションである「ボランティアコーディネーターの専門性と社会的認知の向上」を目標にかかげて、「ボランティアコーディネーション力3級検定」をスタートさせた。市民活動潜在層（無関心、未参加者）を巻き込む力と「信頼に基づいた社会関係」（ソーシャルキャピタル）を創出していく実践的な力を育み、市民参加と協働のための基盤づくりに向けた新たな社会を構築するためのものとしての期待を込めて、JVCAは新たな道のりの一歩を踏み出したのである。

また、同時に精力的に2級検定の研修カリキュラムと試験内容の検討を行ってきた。2010年度に開始する2級検定に加え、2011年度からの1級検定と「JVCA認定ボランティアコーディネーターシステム」の導入をもって、JVCAとしてのボランティアコーディネーション力の普及とボランティアコーディネーターの専門性確立の仕組みを結実させていく。

## ■将来を見据えた方向付けと基盤強化の年 ～2010年度事業計画のポイント

2010年度は、JVCAのミッションである「ボランティアコーディネーターの専門性と社会的認知の向上」への取り組みについて、検定・認定を中心にさらに進めるとともに、これからのJVCAを方向付け、その基盤強化を図る重要な年となる。次なる目標を設定する新しい中期ビジョン（2011-2013）の策定を本格化させ、来る2011年の創立10周年に向けて、JVCAの今後のあり方を大いに議論していきたい。

そして、本年度は「ボランティアコーディネーション力検定」の2級をスタートさせる。3級に引き続き、これはJVCAの2010年度の基幹的な事業となる。さらに「ボランティアコーディネーター基本指針」を活かしたツールやプログラムの普及に努め、検定・認定の仕組みと連動させながら“ボランティアコーディネーションへの理解”を図っていく。

さらに、会員本位の視点に立脚した具体的な事業を形にし、活動に継続的にコミットしてもらえるための仕組みのさらなる検討を進めつつ、事業展開と組織運営を推進する体制の整備・充実に取り組む。特に、検定・認定の継続性を担保するためには、講師陣などの層に厚みをつけるとともに、必要な財源確保に取り組み、検定システム事業の運営を支える事務局体制の強化を図っていくことが必須である。

これらの状況をふまえ、2010年度はJVCAが事業の柱としている4つの重点とそれを支える推進体制づくりの課題に沿って、以下の取り組みを中心に事業展開および組織運営を進めていくこととする。

## **重点1** 多様な領域で活動するボランティアコーディネーターのネットワークの確立

---

- ①メールリストなどを活用したボランティアならびにボランティアコーディネーションに関する情報・意見交換の促進  
⇒WEB媒体を活用したPRや情報提供を通じてボランティアコーディネーター間のコミュニケーションの場を提供する。
- ②文化ボランティアコーディネーター養成講座の開催  
⇒文化庁の委託を受け、文化領域(i ホール運営、ii 博物館、iii 生涯学習、iv フェスティバル、v アートNPO)のボランティアコーディネーターが集まる全国セミナーを開催する。
- ③ボランティアコーディネーション力3級・2級検定合格者への積極的な入会促進  
⇒ボランティアコーディネーション力3級検定に合格した会員以外のボランティアコーディネーターに対して、積極的に入会の案内をする。さらに8月から始める2級検定実施の際にもJVCA入会案内を配付し、呼びかける。

## **重点2** ボランティアコーディネーターの専門性の向上にむけた取り組み

---

- ①「ボランティアコーディネーション力2級検定」の開始  
⇒ボランティアコーディネーションの経験ももつ人たちを対象に、社会のあらゆる場面でボランティアコーディネーションの実務力を発揮していただくために、2級検定システムを導入し、研修と検定試験を実施する。
- ②「ボランティアコーディネーション力1級検定」「JVCA認定ボランティアコーディネーター」システムの検討  
⇒2011年に開始予定の上記システムについて、その詳細を検討し、確立する。
- ③「ボランティアコーディネーター倫理綱領」の起草  
⇒専門職としての自覚と遵守すべき倫理を表すために、ボランティアコーディネーター倫理綱領の作成に着手する。

## **重点3** ボランティアコーディネーターの専門職としての社会的認知度を高めるための取り組み

---

- ①「JVCA 認定ボランティアコーディネーター」システムの開発  
⇒職業としてボランティアコーディネーターの実践を行っている人材に対して、その実践力の向上をはかり、業務の成果を多角的に評価することを通じて、協会としての認定を行う「JVCA 認定ボランティアコーディネーター」システムを検討し、確立する。

#### **重点4** ボランティアコーディネーションの普及

---

- ①「ボランティアコーディネーション力3級検定」の実施  
⇒2009年度から開始した3級検定を継続的に実施する。
- ②「ボランティアコーディネーター基本指針」を活用した普及啓発の促進  
⇒をCoCoサロンや読書会、研修会で積極的に活用することを通して、ボランティアやボランティアコーディネーションについての理解をはかる。

#### **推進体制** 事業を推進する体制の充実

---

上記の重点事業を実施するために運営および事務局体制を充実し、財源確保に努める。

- ①JVCA中期ビジョン2011－2013の策定への着手  
⇒中期ビジョン2006－2008の評価をふまえて、新中期ビジョンを策定する。
- ②JVCA検定・研修事業を支える講師陣の充実  
⇒講師人材の幅が広がるよう計画的な講師の養成を行う。
- ③事務局体制の増強  
⇒事業の拡大に伴い、担当するスタッフを増強する。

## ■ 1 事業の推進

### (1) 全国ボランティアコーディネーター研究集会の開催

- ①「全国ボランティアコーディネーター研究集会2010」(福岡)の開催及び評価  
初めての九州開催になるJVCCを現地実行委員会と協力して企画・実施する。

テーマ:めんたい!コーディネーション つむごう、よか社会の絆

期 日:2010年 3月6日(土)~3月7日(日)

会 場:福岡市市民福祉プラザ(ふくふくプラザ)

- ②「全国ボランティアコーディネーター研究集会2011」(創立10周年記念大会)の準備

### (2) 研修の開催および研修企画の支援

- ①ボランティアコーディネーション力3級検定直前研修の開催 2回・6カ所(東京2回、大阪2回、仙台1回、北九州1回)

- ②ボランティアコーディネーション力3級検定直前研修の共催 2回(共催団体)

- 新規** ③ボランティアコーディネーション力2級検定直前研修の開催 2回(東京・大阪)

- ④各種研修セミナーの開催

・実務者向け:ボランティアコーディネーター基礎研修 3回

(関東 2回、関西 1回)

・実務者向け:ボランティアコーディネーター・ステップアップ研修 1回(関東)

・ボランティアと向き合うことの多いあなたのためのファシリテーション講座 3回

(東京・大阪・名古屋)

- 新規** ⑤文化庁委託事業:文化ボランティアコーディネーター養成講座in可児の開催  
2010年1月23日~24日(土・日) 2日間 於:可児市文化創造センター

- 新規** ⑥東京都教育委員会・東京学芸大学協力事業:都立高校教育サポーター養成事業の実施  
講座名「高校生と福祉をつなぐコーディネーション」

2010年2月9日・17日・23日 研修時間:20時間 於:中野サンプラザ

- ⑦講座等の企画支援と講師等の派遣・紹介

・地域活動等の場面でのボランティアコーディネーションの担い手にむけた研修メニューを開発し、実施する。

### (3) ボランティアコーディネーション力検定の実施

- ①ボランティアコーディネーション力3級検定試験の実施 2回(第1回:東京・大阪・北九州  
/第2回:仙台・東京・大阪/共催2回)

- 新規** ②ボランティアコーディネーション力2級検定試験の実施 2回(第1回:東京/第2回:大阪)

- ③ボランティアコーディネーション力検定試験委員会の運営

- ・各級(3級・2級)ごとのチームの設置とチーム会議の開催
- ・試験問題の作成、試験監督、採点・評価

再掲 ④ ボランティアコーディネーション力3級検定直前研修の開催 2回・6ヵ所 2回・共催

- 〃 ⑤ ボランティアコーディネーション力2級検定直前研修の開催 2回(東京・大阪)
- 〃 ⑥ 『ボランティアコーディネーション力2級検定サブテキスト』(仮題)の編集、発行
- ⑦ ボランティアコーディネーション力3級・2級検定の講師養成
- ⑧ ボランティアコーディネーション力2級検定のトライアル研修の実施

#### (4) 情報の収集及び提供活動の推進

- ① メールマガジン(会員向け)の発行(月1回)
- ② JVCAリーフレットの改訂
- ③ ホームページの充実
- ④ ボランティアコーディネーションに関する情報収集
  - ・ボランティアコーディネーション関連の文献データベースのホームページ上での公開
- ⑤ 雑誌・新聞などへの寄稿 など
  - ・ボランティアコーディネーション力3級・2級検定開始に合わせて、各分野の業界紙、広報紙などへの記事を執筆する。

#### (5) 広報紙および出版物の発行

- ① ニュースレターの発行
  - 『Co★Co★Net』の発行 年3回(発行月:4月、8月、12月)

- 新規** ② ボランティアコーディネーション力2級検定サブテキストの編集・発行
  - JVCA ブックレット③ 『ボランティアマネジメントの実務』(仮称)
  - 加除式 2 級検定テキスト:(タイトル未定)

#### (6) 調査・研究活動の推進

- ① 「ボランティアコーディネーション力検定」システム(2級・1級)の検討
  - 2級サブテキスト、研修プログラム、試験問題を作成し、研修と検定のトライアル(試行)を行う。2011年度に1級検定実施にむけて準備をする。
- ② 「JVCA認定ボランティアコーディネーター」システムの開発
  - 2011年度の本格実施にむけての検討、準備を行う。
- ③ 上記2つを実施するための「検定・認定システム化検討委員会」の継続

- ④「文化ボランティアコーディネーター活性化委員会」の継続  
平成 21 年度文化ボランティア支援拠点形成事業[文化庁委託事業]により設置した、標記委員会を継続し、研修講座の準備と評価を行う。
- ⑤ボランティアコーディネーター倫理綱領の作成  
ボランティアコーディネーターの専門職としての自覚と遵守すべき倫理を表すために、ボランティアコーディネーター倫理綱領を起草する。
- ⑥『ボランティアコーディネーター白書2010-2012』の編集  
大阪ボランティア協会が発行を予定している『ボランティアコーディネーター白書2010-2012』の編集に着手する。

## (7) 相談への対応

- ①会員メーリングリストによる会員相互の相談助言活動を促進する。  
悩み相談、意見発信、問題提起、情報交換など、会員メーリングリストに寄せられる相談を通して会員同士のコミュニケーションを促進する。
- ②頻度の高い問合せについて、ホームページに掲載する。  
『Co★Co★Net』でのアンケート結果や事務局に入る頻度の高い問合せへの対応について提案・発信することで、現場のボランティアコーディネーション力向上につなげる。

## (8) ネットワーク推進事業

- ①CoCoサロンの開催・運営支援
  - ・会員サービスの一環として、会員相互の交流を深める場(機会)として、会員が自主的に開催するCoCoサロンの新規立ち上げおよび運営を支援する
  - ・JVCC2010(福岡)ランチミーティング(仮称)の開催 (JVCC2010 の会場にて)
- ②CoCoアカデミーの開催  
地元で研修を開催したい会員の多様なニーズに応じて、地元会員との協働で研修を開催する。
- ③国内外の関係団体との連携  
国内外の関係団体とボランティアコーディネーションの普及促進に関連する事業に後援ならびに協力し、連携を深める。

## (9) アドボカシー活動の展開

- ①ボランティアコーディネーションの普及啓発  
「ボランティアコーディネーター基本指針」ブックレットの販売促進及び主催研修や講師派遣先での普及啓発を行う。
- ②「基本指針を読む会」の開催促進  
『ボランティアコーディネーター基本指針』活用マニュアル」を活用し、各地域、各職場などにおいて、ボランティアコーディネーターや関係スタッフ相互の意見交換の場＝基

本指針を使った集いや研修の開催を促進し、ボランティアやボランティアコーディネーションに対する考え方の普及につなげる。

③ポスターキャラバンの継続

ボランティアコーディネーターの社会的な認知を高めるためのポスターを会員に配布し、貼り付けを呼びかけ、会員からその取り組みについてフィードバックをもらう。

④社会情勢に応じたアドボカシー活動を展開する。

介護支援ボランティア制度の実施の動向を把握し、必要に応じて課題提起などを行う。

## ■ 2 組織運営と財政強化

(1) 通常総会 2010年3月7日、福岡にて開催する。

(2) 理事会 4回開催(2月、4月、7月、12月の予定)

(3) 委員会

①運営委員会 月1回、12回開催する。

開催予定地:東京・大阪など

合宿1回(関東)

②各種委員会の運営

各種事業の進行管理を徹底し、事業推進と組織運営への会員参加を進めるため、理事、運営委員、一般会員の参加で以下の委員会を推進する。

- i) 広報普及委員会 …会員新規拡大、ホームページ充実、ボランティアコーディネーター基本指針の普及など、JVCAのPR活動全般
- ii) 会員サービス委員会 …会員継続支援、CoCoサロンおよびココアカデミー開催支援、Co☆Co☆Net編集など、会員に向けた広報・支援
- iii) 研修開発委員会 …実務者向け基礎研修等の実施、専門委員会との協働
- iv) JVCC企画委員会 …全国ボランティアコーディネーター研究集会2010、2011の企画、今後のあり方検討
- v) 財政委員会 …財政シミュレーションと具体的な財源強化対策

③専門委員会の設置、運営

- i) 検定・認定システム化検討委員会(継続)

④プロジェクトチームの運営

各種委員会の他に、必要に応じて各種チームを構成し、事業の進行を図る。

- i) 研修実施プロジェクトチーム
- ii) ホームページメンテナンス・タスクチーム
- iii) ボランティアコーディネーター倫理綱領作成チーム
- iv) 中期ビジョン2011-2013策定チーム

#### (4) 会員拡大および会員サービスの充実

##### ①会員拡大に関する取り組み

- ・多様な分野においてボランティアコーディネーターの社会的認知を広げ、JVCAの事業や運営への参加を拡大し、会員組織としての組織構成を強化する。
- ・ボランティアコーディネーション力3級検定合格者に対し、JVCC2010開催と入会の案内を行う。
- ・ボランティアコーディネーション力2級検定合格者に入会を促す。

##### ②会員サービスの見直しとサービスの拡充

会員のニーズを的確に把握し、会員がJVCAにコミットする機会拡大とJVCAをより身近な存在として感じられるサービスとして、CoCoサロンを主軸とした地域や分野における会員相互の意見・情報交換とボランティアコーディネーションの普及・啓発の場づくりを拡充する。

##### ③会員継続支援サービスの充実

準会員から正会員への移行を促すような「会員継続支援サービス」を充実し、会員の定着と会費未納者を減らすための工夫を行なう。「会員旨みツール」(仮称)を作成し、会員にニーズに応じたJVCAへの参加や活用方法を知ってもらう。

#### (5) 事務局運営の充実

##### ①事務局スタッフの強化

- ・非常勤職員を常勤化する。
- ・事業が増加するため、事業推進のアルバイトスタッフを増員する。

##### ②事務局担当理事の設置(継続)

事務局担当理事によるスーパービジョンを定期的に行う。

##### ③事務所スペースの拡大の検討

検定に関わる保存書類の増加と、事務所スタッフの増員に伴い、手狭になった事務所スペースを拡大するための検討を行う。

#### (6) 財源の確保と財政運営

##### ①会費収入の拡大

会員特典(JVCC・研修・セミナー参加費割引など)を積極的に周知し会員の勧誘を図る。

##### ②事業収益の拡大

検定受験者を安定的に確保する。

##### ③その他財源の拡大(助成金、委託事業など)

JVCAの事業目的に合った助成金や委託事業などに積極的に応募する。